

★ 「サラリーマン川柳」が節目の30回を迎えました！

サラリーマン川柳は1985年に第一生命の社内広報誌の企画として募集が開始され、1987年(昭和62年)から一般公募がスタート。以降毎年募集選考が行われ、今回で累計約110万句の応募があったとのこと。今年も応募作の中から先ず会社が100句を選定し、その後一般投票により順位を決定(5月下旬頃)します。1等から100等まで豪華？な賞品がもらえるだけでなく、トップ10に選ばれた句は、漫画家やくみつる氏のイラスト付きでNHK出版「サラリーマン川柳傑作選」にも掲載されるようです。

一般公募がスタートした30年前というと、バブル景気(1986年12月～1991年2月)の時期とピッタリ重なり、当時の世相が作品にも色濃く反映されるなど、その時代の空気感が手に取るように感じられます。以下に第4回からの歴代1位作品と個人的に面白いと思った作品(※印)を掲載しますので当時の世相を感じ取ってみてください。

第4回「ボディコンを 無理して着たら ポンレスハム」

※「一戸建て 手が出る土地は 熊も出る」

第5回「まだ寝てる 帰ってみれば もう寝てる」

第6回「いい家内 10年経ったら おっ家内」

第7回「連れ込むな！ わたしは急に 泊まらない」

第8回「やせてやる！！ コレ食べてから やせてやる！！」

第9回「『ゴハンよ』と 呼ばれて行けば タマだった」

第10回「『早くやれ』 そう言うことは 早く言え」

※「窓際も だん々増えて 活気出る」

第11回「わが家では 子供ポケモン パパポケモン」

第12回「コストダウン さげぶあんたが コスト高」

第13回「プロポーズ あの日にかえって ことわりたい」

第14回「ドットコム どこが混むのと 聞く上司」

第15回「デジカメの エサはなんだと 孫に聞く」

※「しっぽ切り トカゲはいいな 生きられる」

第16回「タバコより 体に悪い 妻のグチ」

第17回「『課長いる？』 返ったこたえは 『いりません！』」

第18回「オレオレに 亭主と知りつつ 電話切る」

第19回「昼食は 妻がセレブで 俺セルフ」

第20回「脳年齢 年金すでに もらえます」

第21回「『空気読め！！』 それより部下の 気持ち読め！！」

第22回「しゅうち心 なくした妻は ポーニョポニョ」

第23回「仕分け人 妻に比べりゃ まだ甘い」

第24回「久しぶり～ 名が出ないまま じゃあまたね～」

※「何になる？ 子どもの答えは 正社員」

第25回「『宝くじ 当たれば辞める』が 合言葉」

第26回「いい夫婦 今じゃどうでも いい夫婦」

第27回「うちの嫁 後ろ姿は フナッシー」

第28回「皮下脂肪 資源にできれば ノーベル賞」

※「小遣いの 異次元緩和 未だなし」

第29回「退職金 もらった瞬間 妻ドローン」

こうして見ると、華やかなバブル期、バブル崩壊後のリストラ期、給料が上がらないデフレ経済期、そして普遍的な家庭内や夫婦間でのお父さんの自虐ネタ、ITネタなど、時代を超えて笑える川柳が数多くあります。最近の傾向として、女性や30歳未満の若者の応募が非常に増えているとのことですので、川柳の純粋な笑いの喜びとそれを共有する喜びを、職場環境の改善にうまく活用してみても如何でしょうか。(工藤克己)